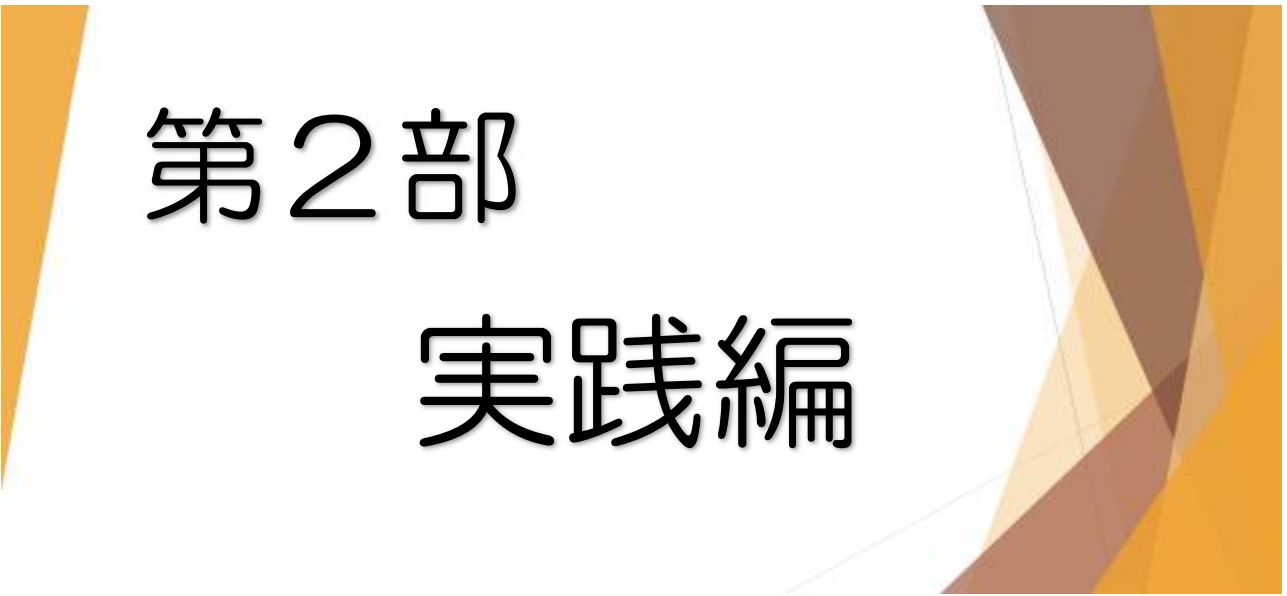




第2部 実践編

第1章 教科指導

1 国語

(1) 国語の指導内容や特性

国語科の指導内容としては、「二つの言語力」の育成を目指すという視点がある。

まず、「基礎教科としての言語力(漢字の読み書き、場面や状況を的確に説明したり、要約したりする力、文法力など)」、そして「就労につながる言語力(コミュニケーション力、敬語や礼状などの社会生活力)」である。

知的障がいの生徒は、障がいや発達の偏り等に伴う学習内容の定着の困難さに加え、小、中学校時代に不登校だったり、教科書を使わない指導を受けてきたりするなど、様々な学習形態を経験した生徒が多い。したがって、それら二つの言語力が身に付いていなかったり、使い方を間違っていたりするケースが多い。その状況に対し、学び直しも含めた指導をする上では、思い切った指導内容の精選や焦点化をする必要がある。

また、特別支援学校における国語科の特性として、指導内容が他の学習場面や寄宿舎の活動場面など、生徒の生活との間で深い相関関係があり、加えて生徒の卒業後の余暇、就労や実習先での評価に直結すること多いため、指導に当たっては、深く広い先見性が必要となる教科である。

(2) 国語における協同学習の授業づくり

1 互恵的な相互依存関係

- ・「意見を聞いてまとめる活動」を取り入れた学習場面を設定し、生徒が相互に情報を交流することで学習に参加できる授業スタイルを作る。
- ・全員同じ新聞記事を読み、グループになって相互の考えを合わせ、修正しながら一つの要約文に作り上げる学習活動を設定する。
- ・詩の学習で、歌詞の核心の部分を空欄にして提示し、他の生徒と予想した言葉を交流しながら、それがどんな言葉やイメージなのか、自分の考えをまとめ、正解に迫る。

2 対面的なやりとり

- ・学習集団をペアと小グループの複数体制で設定し、相互に議論する。
- ・オープンエンドの発問を入れることで、生徒が「間違い」を恐れることなく自分の考えを発表し合う。

3 個人としての責任

- ・理解の程度やイメージ力が近い生徒同士をグルーピングすることで、学力差により生じる依存的な姿勢をなくし、主体的な学習者として授業に参加する状況を作る。
- ・事前に個人で考える時間を設定する。

- ・話し合いの前に各自で新聞記事を読み、段落ごとに要約を考え、ワークシートに記入する。

4 協同学習スキル

- ・ルールを設定した話し合いをし、それに向けた話の聞き方を身につける。
- ・事前に話し合いの際のルールの指導を受けて、自分の意見にはその理由を付けることや相手の考えを批判したり否定したりしないことなどを守って学習する。
- ・他者の意見の模倣や追従ではなく、自分のイメージを自分の言葉で考えて伝えることを意識して学習する。

5 チームの振り返り

- ・課題を全体で確認する。
- ・ワークシートを用いて自己評価する場面を継続的に設定する。
- ・自分の意見が全体の意見の中でどのように位置付けられるか、確認できる場面を設定する。

(3) 国語で協同学習を取り入れるメリット

- ・基礎教科としての言語力の視点から見ると、特に生徒個々の要約力や読解力の向上が図られる。
- ・就労につながる言語力の視点として見ると、要約及び発表において、生徒の実態に応じた言語力の向上が図られる。
- ・グループ内での話が円滑に進み、要約文や言葉の発見など、様々なかたちの成果を作り出すことができた。相互に生徒同士が自分の考えを交流する場面が見られる。
- ・グループ内での意見交流の後には、多くの生徒が自分の意見を修正したもの、修正しなかった生徒もいた。意見を変える立場や変えない立場の双方について、「生徒の選択」を尊重できる。
- ・生徒一人一人の意見は、付箋を利用し、集団全体で確認する場を設定するなど、各グループの考えの再確認と全体での情報共有を図ることができる。
- ・情報共有の場面を通して各自のコミュニケーション力の向上が見られ、みんなで一つの物を完成させようと主体的に学習することができるようになる。また、生徒個々のコミュニケーション力の向上が見られ、「みんなで一つの課題の解決に向けて取り組もう。」と主体的に学習することもできる。
- ・生徒の実態に応じた教材、活動内容を用意することで、全員が自分の力で読解力や要約に取り組んだり、詩の内容に沿った心情的な言葉やイメージを基に「自分の考え」を持った上で話し合いに臨んだりすることができる。

(4) 課題点

意見が対立したとき、生徒は冷静さを欠いて事前に確認したルールが守られないことがあり、途中で教師の介入が必要となる場合があった。また、要約や発表に向けた話し合いの時間が長くなったとき、簡単な振り返りにとどまり、次回に生かすポイントまで共有しきれないこともあった。さらに、正解につながる言葉やイメージが予想以上に多く出た場合、生徒自身が全体の意見を見渡しきれなくなる恐れも考えられる。ただしこれは、国語特有の「正解が多岐に渡る。」という性質上、やむを得ず生ずる課題でもある。

国語の実践例

単元・題材名 (授業名)	グループディスカッション (話し合いをしよう 第3回)	生 徒	2年生習熟度別グループ8名
-----------------	--------------------------------	-----	---------------

1 授業のねらい

(単元の目標)

- ・文章の内容を理解し、筋道を立てて自分の意見を述べることができる。
- ・相手の意見を理解し、自分の考えと照らし合わせながら話し合うことができる。

(本時の目標)

- ・仲間の意見に対して意見や質問をすることで、具体的な話し合いをすることができる。
- ・前時の振り返りを踏まえて、発言や話し合いの仕方を改善することができる。

2 生徒について

- ・長文読解を得意とする生徒と、短文なら読解できる程度の生徒が4名ずつ在籍している。
- ・自分の意見に理由をつけて発言する方法を学習しているが、適切にできる生徒と難しい生徒が混在しており、難しい生徒は自主的な発言にも消極的である。集団の構成によってできる・できないが左右される場合もある。
- ・感情的に自己主張したり、不満があるときに直接的な言動をとってしまう生徒がいる。

3 指導計画

第1回 9月13日 : 話し合いの仕方①(理由をつけて意見を述べる、発言時の言い方)

第2回 9月25日 : 話し合いの仕方②(話し合いの練習)

第3回 10月 2日 : 話し合いをしよう第1回

(新聞の投稿欄を読み自分の意見を述べる、以下第6回まで同様)

第4回 10月11日 : 話し合いをしよう第2回

第5回 10月16日 : 話し合いをしよう第3回 (本時)

第6回 10月18日 : 話し合いをしよう第4回

第7回 10月23日 : 話し合いをしよう第5回

第8回 10月25日 : 話し合いをしよう第6回

4 本時の展開

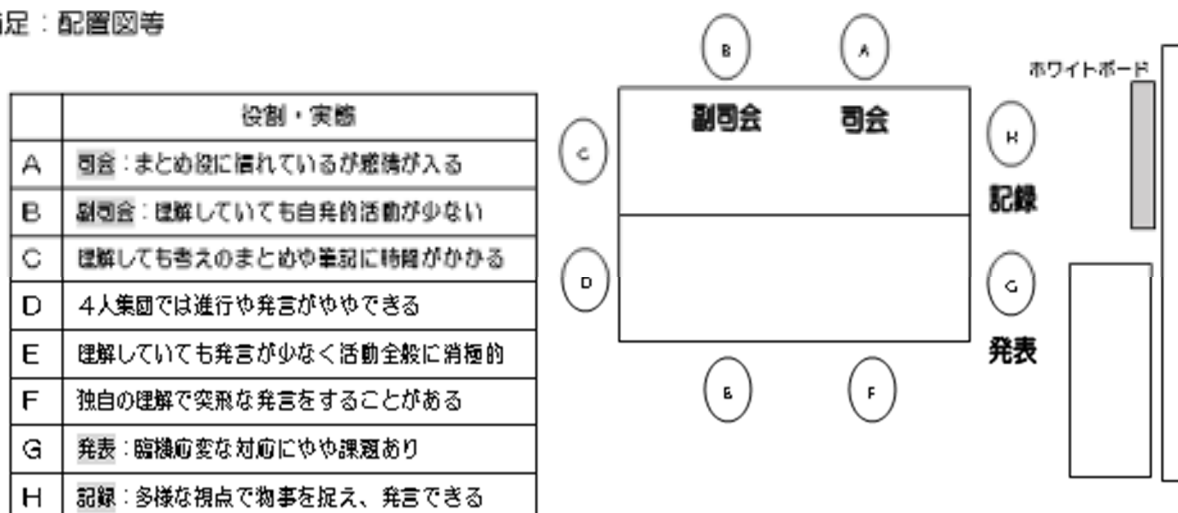
	学習活動	生徒の活動	教師の活動	教材教具
導入 5分	・始業挨拶 ・本時の説明	・日直に合わせ挨拶する。 ・本時の学習内容と流れについて理解する。	・日直に号令をかけさせる。 ・前時と活動の流れが同じであることを確認させる。	

	・前時の復習	・前時の話し合いの良かった点と課題点について確認し、本時の目標を知る。	・前時の振り返りシートを見るよう促し、話し合い時の各自の目標と全員の目標を確認させ、全員の目標は板書する。 <協同学習の要素や配慮事項> ・目標を共有できるよう丁寧に振り返り、本時の目標を説明、板書をする。(①)	・前時の振り返りシート ・黒板
展開 30分	・文章読解 ・意見をまとめる ・話し合い	・文章を読む。 ・筆者の考えをまとめる。 ・筆者の考えを共有する。 ・筆者の考えと自分の経験を踏まえ、自分はどうのように考えるのか、意見と理由をまとめる。 ・役割分担をする。 ・話し合いを行う。	・生徒Cに全文を読ませる。 ・空欄を埋めさせる。各自考えたあと、周囲の仲間と答えを確認させる。 <協同学習の要素や配慮事項> ・解答をともに考え、教え合い、助け合いの時間を設ける。(②) ・発問し、答え合わせをする。 ・意見に対する理由を明確にさせるが、生徒の理解度に合わせた解答欄を設ける。相手に分かりやすくまとめられているか確認し助言する。 ・8人全員で話し合いを行う。役割はローテーションで決めておいたとおりとし、簡単に役割を確認するほか、一人1回以上発言するという条件も確認する。 <協同学習の要素や配慮事項> ・話し合いや発言が得意な生徒と苦手な生徒を同じグループにすることで助け合いを促す。(②) ・個々の役割を明確にさせる。(③) ・進行手順表をもとに司会に話し合いを進めさせる。	・課題用紙 ・役割表示 ・進行手順表

			- 記録はホワイトボードに記入させる。必要に応じ教師が補助する。 <協同学習の要素や配慮事項> - 話し合いの流れや結論を視覚化し共有できるようにする。 (配慮⑬) - 必要に応じてメモをとらせる。 - 各自自分の意見を述べさせる。 - 他者の意見に対する意見や質問を述べさせる。 <協同学習の要素や配慮事項> - 話す目的や場に応じた言い方で話すよう促し、不適切な場合は教師が改善のポイントを示し、言い直しさせる。(④、配慮⑨) <協同学習の要素や配慮事項> - うまく発言や進行ができた場合は、そのポイントを全体に伝えた上で称賛する。(配慮⑩⑪) - 話し合いの結果を発表させる。	ホワイトボード
整理 10分	振り返り	- 振り返りシートを記入し、本時の話し合いや発言について自己評価する。 - 自己評価について発表し、他者へのアドバイスがあれば述べる。 - 教師の講評を聞いて、次の話し合いに向けた改善点を理解する。	- 次回どうするかについても考えて書かせる。 - 自己評価は総合的にどうだったかを発問する。アドバイスを受けた場合はメモするよう促す。 - 次回に向けた教師からの助言をメモさせる。 <協同学習の要素や配慮事項> - 今回の状況を振り返らせ、どのようにすると次回よりよい話し合いや発言ができるかを考えさせる。(⑤)	本時の振り返りシート

	・次時予告	・次回の学習内容を知る。	・別の話題で話し合いを行うことを伝える。	
	・終業挨拶	・日直に合わせ挨拶する。	・本時の学習プリントを全て回収する。	
		・日直に号令をかけさせる。		

補足：配置図等



5 指導上の工夫

① 互恵的な相互依存関係

生徒全員がそれぞれの課題や役割を意識するとともに、本時の話し合いを良いものにしようと心掛けることができるような工夫を盛り込んだ。まず、前時の話し合いの結果（課題）を踏まえて、本時の話し合いで気を付けるべき点を目標として板書することで、全員が目標を達成しようとする意識付けを図る。また、「話し合いの心得」として毎時掲げている注意点も提示する。

さらに、複数かつ多様な意見を一つにまとめるよう意識付けさせる工夫として、話し合いの際は、話の流れを生徒全員が分かるようにホワイトボードに記録を書かせ、類似する意見や異なる意見があることを視覚的に示すようにした。話し合いのまとめをするのは司会や発表に限らず誰でもかまわないことを伝え、生徒全員で一つの結論を出そうという意識を持たせるようにした。

② 対面的なやりとり

生徒8名の読解力やコミュニケーション力には差があるが、個々の得意不得意を互いにカバーし合えるような関係づくりを目指し、あえて8名全員を1グループとして話し合いに取り組ませることにした。読解や発言が苦手な生徒には、得意な生徒が声を掛けるよう教師が言葉掛けをしながら授業を進める。

③ 個人としての責任

生徒全員に明確な役割を与え、活動に参加できない、あるいはしない生徒が出ないように工夫した。司会は話し合いを進行する役、副司会は司会を助けタイムキーパーを務める役、記録は全員に分かりやすく意見等をホワイトボードに記入する役、発表は話し合いの結果を自分の言葉で簡潔にまとめて発表する役である。この4役に当たらない4名の生徒には、話の流れに沿って積極的に発言することを役割として与えた。また、全員1回以上は発言をするという条件を設けた。

④ 協同学習スキル

コミュニケーションスキルを伸長するよう、教師の言葉掛けを工夫する。相手を不快にさせ

るような言い方があった場合は、事前に学習済みの「オープンクエスション」をすることや「ふわふわ言葉」を使うように促し、他に言い方がないか考えさせる。発言が消極的になっている場面では、司会に指示して進行手順表をもとに発言を促す進行をさせる。また、言い方が分からなかったり考えがまとまらなかったりする生徒がいた場合は、個別に言葉掛けをして自ら考えられるような働き掛けをする。

⑤ チームの振り返り

授業の最後に「話し合い振り返りシート」に取り組ませる。これを用いて、自分の役割は果たせたか、適切な言い方で1回以上発言できたかなどを自己評価させる。また、生徒や教師からの他者評価を受けることにもよって、自分のどこが良かったか、改善すべきところは何かを明確にさせる。さらに、教師が本時全体について講評を伝えることで、8名の集団としての良かったところを称賛するとともに、次の話し合いの際に改善すべきところを明確にし、次時の目標へとつなげる。

6 指導の効果

まず、導入の段階で、本時の話し合いで気を付けるべき点を目標として提示したことや話し合いを展開させる前にも再度確認したことで、全員が目標を意識して活動することができた。

また、8名全員を1グループとしてその後の活動に臨んだが、数回行っていることもあり、授業の流れや助け合う場面などは理解し、主体的に活動することもできていた。例えば、話し合いの基とする文章の読解に取り組ませたときである。今回は、生徒と同年代の学生が投稿した『中堅学年2年生、今度は後輩を導く』という記事を読み、穴埋め式の問題を解くことで筆者の考えを要約させた。各自で解答した後、教師の言葉掛けをきっかけに周囲で解答を確認する様子が見られ、仲間と共に学ぶという意識付けができてきたと考える。

その後の話し合い活動では、一人一人が与えられた役割を理解し、教師や仲間の助言を得ながら役割を果たそうと努力していた。また、全員が一人1回以上発言することもできたことから、個人としての責任は果たしていたと考える。さらには、本時の目標とした「仲間の意見に対して質問や意見をすることや、それに対する応答もできていた。

ここでは、どの生徒の発言を聞いても、以前見られたような相手を不快にさせる言い方や、攻撃的な言い方がほぼ見られなかった。過去の授業で繰り返し指導してきたことから、話し合いという場面における言葉の使い方を考えるようになってきたのではないかと考えられる。ただし、思うように言葉が出なかったり、質問の内容が理解できなかったりした生徒もいた。このような場合は、教師からの言葉掛けによって、適切な言葉で活動に参加することができた。

振り返りの活動では、どのように自己評価をしたか尋ねたところ、今回の話し合いは良くできた、つまりたくさん発言したり、授業の目標を達成したりできたと答える生徒がいた。練習を含めて過去3回の話し合いにおいても、小さなことでも「できた」という経験を積み重ねていることを生徒にフィードバックさせている。「できなかった」ことについては、振り返りシートに教師がコメントすることで個別に助言を行っている。こうした積み重ねにより、次の活動に対する意欲や意識を持たせることができ、その成果として今回の話し合いが成り立っていたのではないかと思われる。

7 今後の課題

あと3回、同じ活動を続けることになるため、マンネリ化しないような工夫が必要である。話し合いの基とする文章の内容も、できるだけ生徒の実生活に関連したものにするなどして、自分の生活と照らし合わせて意見をまとめられるようにする。ただし、その際の問いや、話し合いのテーマについては、抽象的なものにしない方がよい。今回は「後輩のために、先輩として、どうしたらよいか」としたが、具体的な例や理由をつけた意見をまとめることができた生徒は少数だった。今後は生徒の実態を考慮して、具体的な意見を書きやすいような問いや、賛成・反対によって意見と理由を表明できるような問いを設定するようにする。

話し合いの最中は、教師がフォローを入れる場面がいくつかあった。司会が進行の仕方に困っている場面が多かったほか、同じような意見が出たときに自分から挙手するよう促した場面、話が端的に要約されていないため教師がそれをしてしまった場面などである。時間の制約もあったため、教師が正解へと導いてしまい、生徒同士の助け合いによる学び合いを促すことができなかった。「先

輩」「後輩」にどのように話すかについて話し合う場面では、図解するなどして丁寧に確認すべきだった。こうした困難な生徒や状況に対して、生徒が主体的に学び解決できるようにする必要がある。具体的には、普段から他者が担っている役割をよく観察しておくよう言葉掛けをする、生徒自身に考えさせるきっかけになるような言葉を選んで言葉掛けをするといった、教師の働きかけの改善が必要である。さらに、グループを細分化して活動させる時間を設ける、他者評価を受ける場面をしっかりと設定するといった、授業展開の工夫が必要である。

※ 授業を振り返って

1 学期に行った要約の学習も協同学習として行ったため、課題に対して全員で取り組み解決するという基本的な意識は定着していると感じた。また、その要約の学習を踏まえて筆者の考えを要約できたことも、学習の成果と捉えることができる。協同学習という授業のスタイルを継続すること、指導内容に系統性を持たせて授業を構成・展開していくことの重要性を改めて認識することができた。

一方で、教師の働きかけによってその成果が左右されるということも痛感した。特に、互恵的な相互依存関係を構築するための導入、活動を経て行うチームの振り返りによって、その授業で何を学ぶか・学んだかを生徒自身に意識させることで学習に対する意欲や理解の向上が図られると思われる。また、協同学習スキルに関する指導においては、生徒自身に課題点を改めさせるためのヒントを与えるようにすることで思考力・判断力・表現力を向上させられると思われる。以上を踏まえて、今後も授業づくりや指導方法の改善と充実を図りたい。

2 数学

(1) 数学の指導内容や特性

数学科で取り扱う内容としては、「数と計算」、「量と測定」、「図形・数量関係」、「実務」から構成されている。特に「実務」においては、金銭、時刻、時間、暦など実生活に関連深い学習内容を取り上げている。

生徒の数量的な感覚を豊かにしたり、生活に役立つよう实际的に数量を処理したりする能力を高めたりするためには、生徒自らが興味関心をもち、数量を扱う必要性を感じ、目的意識をもって主体的に理解を深められるように、実生活に関連した具体的な指導内容を設定する必要がある。

日常生活に必要な数量や図形などに関する理解を深め、それらを実際の生活場面で取り扱い、生活に生かしていく能力と態度を育てることを目標としていることが特徴である。

(2) 数学における協同学習の授業づくり

1 互惠的な相互依存関係

- ・与えられた物の数を、ペアやグループで協力し合って数える。
- ・営業日や定休日、時間などを意識してグループで協力し合って旅行の計画を立てる。
- ・グループで話し合って買い物の計画を立てる。

2 対面的なやりとり

- ・数え方や数えた結果を仲間に教え合う。
- ・旅行パンフレットの資料を基に自分の行きたい場所を考え、仲間や司会者に伝え合いながら予定表にまとめる。
- ・生徒の役割や課題を適切に設定することで、お互いに意見を伝え合う。

3 個人としての責任

- ・全員が「数える」という役割を担当する。
- ・全員の考えを取り入れるために、旅行の行き先について必ず行きたい場所を一人1箇所決める。
- ・購入商品の選択や概算計算、計算機での確認や買い物計画の発表の役割を果たす。

4 協同学習スキル

- ・「いくつずつのまとまりを作るか。」「数えた物をどのように置くか。」など、どのように協力して数えるのかを考える。
- ・数えた結果を相手に分かりやすく伝える。
- ・説明をする際は、仲間の意見を批判するような態度を取らず優しい言葉遣いをする。
- ・定休日や開店時間を意識して、多数ある旅行パンフレットの資料から行き先を選択する。

- ・チラシの中から必要な商品を選んだり、計算機を使用したりして予算内で購入できるように確かめる。
- ・グループでの話し合いを通して質問したり、説明したり、考えをまとめたりする。

5 チームの振り返り

- ・グループでの協力の方法が良かった点と改善すべき点にまとめ、グループのメンバー全員で情報を共有する。
- ・改善点をグループで共有した後、教師からも活動の良かった点を伝える。
- ・話し合いの振り返りがしやすいように、簡素な質問形式のプリントで振り返りを行う。
- ・目標を踏まえて良かった点や悪かった点を講評し、次の学習や話し合いに生かすことができるように助言する。

(3) 数学で協同学習を取り入れるメリット

- ・与えられた物の数を全員が協力して数えることで生徒に「一人で数えるより速い。」「協力することは（授業以外での）他の場面でも役立つ。」などと、協力することの必要性について理解を深めることができる。
- ・旅行の日程とは合わない旅行パンフレットの資料を選んでしまっていた仲間に、日程を意識するように指摘することができる。
- ・予定表をまとめるために、質問し合ったり、お互いの計画を確認し合ったりすることができる。
- ・チラシを見て商品を選ぶ際に、複数の人がいる中では普段積極的に会話をしない生徒が、意見を述べるなど意欲的に取り組むことができる。

(4) 課題点

協同学習を取り入れることにより、協力することの必要性について理解を深めることができたが、数量的な感覚や数量を処理する能力に差が見られたため、個別の支援が必要な場面があった。協同的な学習だけではなく、個別に学習を行う場面を設定したり、指導法を工夫したりする必要がある。

司会やタイムキーパー、記録の人たちで、話し合いを円滑に進めるために役割分担を行ったが、生徒の実態によってはそれぞれの役割を果たすための技能が身に付いておらず、自分の意見を考えることに精一杯になってしまい、話し合いを円滑に進めることが難しい場面が見られた。そのため、それらの技能を伸ばすための学習を設定したり、実態に合っている生徒に役割分担してもらったりする必要がある。また、役割が当たっていない生徒が役割の当たっている生徒に助言をするなど、助け合うための場面を設定する必要もある。

話し合いでは、中心になる生徒がリードをすることでグループとしての目標である買い物の計画を立てて発表することができたが、話し合いが一部の生徒のみに偏って決められてしま

う様子が見られた。改善点としては、話し合いを充実させるためにグループ分けを生徒の実態に応じて教師で行い、一部の生徒だけでなく全員が責任をもって個々の役割を意識した話し合いができるようにすることが必要である。

数学の実践例

単元・題材名 (授業名)	「協力して数える」(第2回)	生徒	生活家庭科3年生徒5名
-----------------	----------------	----	-------------

1 授業のねらい

(単元の目標)

- ・同じものの同士の集合づくりができる。
- ・物の集まりや数詞と対応して、個数を数えることができる。

(本時の目標)

- ・具体物の数を数えることができる。
- ・仲間と協力して数えるときに必要なやりとりを知り、実践することができる。

2 生徒について

- ・個数を数え間違えることはあるが、同じものの同士の集合づくりをすることができる。
- ・数詞と対応して個数を数えることはできるが、数が大きくなってくると理解があいまいな生徒がいる。
- ・生徒同士の話し合いで役割の分担などを決めることができるが、自分から意見を言うことが難しい生徒もいる。

3 指導計画

第1回 6月27日 : 具体物を数えることの実践、協力に必要なやりとりについての説明

第2回 7月4日 : 具体物を協力して数えることの実践 (本時)

第3回 7月18日 : 前時の振り返りから、改善点を加えて協力して数えることを実践

4 本時の展開

	学習活動	生徒の活動	教師の活動	教材教具
導入 10分	・挨拶 ・50マス計算 ・本時の学習について	・日直が号令を行う。 ・50マス計算を行う。 ・丸付けをする。 ・本時の学習内容を知る。 ・数えるときに気を付けることや必要なやりとりについて知る。	・時間を計測する。 ・答えを発表する。 ・本時の学習内容を伝える。 <協同学習の要素や配慮事項> ・黒板に表を書き、活動の流れを視覚的に示す。(配慮⑫) ・数えるときに気を付けることについて説明する。	・タイマー

			・協力して数えるために必要なやりとりについて説明する。 <協同学習の要素や配慮事項> ・全員に「数える」という役割を与える。(③)	
展開 30分	・具体物の数を数える	・ペアで数え、発表する。 ・グループ（3人）で数える。 ・グループでの良かった点、良くなかった点を振り返る。	・数え棒を配布する。 ・表に数を書き込み、答え合わせをする。 ・牛乳パックを配布する。 ・表に数を書き込み、答え合わせをする。 <協同学習の要素や配慮事項> ・与えられた物の数を、ペアやグループで分担して数える。(①) ・数え方や数えた結果を仲間に教え合う。(②) ・協力して数えやすいように机の位置を移動させる。(配慮⑦) ・ペアやグループで生徒のやりとりが成立するように教師は具体例を挙げて言葉掛けをするなどの支援を行う。(④) ・ペアやグループの中でお互いに見直しをさせる。(配慮②) ・具体物の個数の答えをホワイトボードに掲示する。(配慮⑬) ・数え間違いなく表の欄を埋められた際には、協力して表を完成できたことを称賛する。(配慮⑪) ・生徒の発言から、改善点をまとめる。 <協同学習の要素や配慮事項> ・ここまでのグループの取り組み方を振り返る。(⑤)	・数え棒 ・ホワイトボード ・牛乳パック

		・全員（５人）で数える。	・ポットを配布する。 <協同学習の要素や配慮事項> ・段階的に人数や数える物の個数を増やしていく。（配慮①） ・表に数を書き込み、答え合わせをする。	・ポット（ビニール鉢）
整理 5分	・振り返り ・挨拶	・本時の授業を振り返る。 ・日直が号令を行う。	・生徒の理解度を確認する。 <協同学習の要素や配慮事項> ・改善点をまとめた後の、数え方や生徒同士のやりとりの仕方 で良かった点を教師から伝える。（⑤、配慮⑩）	

5 指導上の工夫

① 互恵的な相互依存関係

与えられた物の数を全員が協力して数えることで総数が分かるという場面を設定した。黒板に表を作り、自分達が数えた数字が記入されて、その総数が明確になることで完成する表を用いることで、全員で協力し合うという関係を作ることをねらいとした。

② 対面的なやりとり

与えられた物の数を数えたら終わりではなく、それをペアやグループの中で伝え合ったり教え合ったりするという場面を設定した。また、設定時間内に数え終わった際には、見直しをペアやグループで行うように伝えた。やりとりの仕方にとまどう生徒には、教師が適切な言葉掛けを行う。

③ 個人としての責任

自分の数えた数が間違っていた場合は総数も間違いになるので、丁寧に数え、間違いがないように見直すようにさせることで個人の責任をもたせる。また、数種類のもの（３色の数え棒）を用意して、生徒同士の話し合いで色ごとに役割分担できるように促す。

④ 協同学習スキル

人と協力して数えるときに、どのように（いくつずつのまとまりをつくるか、数えた物をどのように置くかなど）数えていくのかを確認することの必要性を伝えるとともにモデルを示す。前時に確認の仕方について具体例（１０ずつまとめて、並べて置くなど）を出して教えている。また、数えた結果を伝える際にも相手に分かりやすく伝える必要性があることを伝え、生徒同士がどのように伝え合っているか注視し、必要があれば教師が言葉掛けをして、支援する。

⑤ チームの振り返り

グループでの協力の仕方でも良かった点、良くなかった点を挙げさせる時間を設ける。また、その意見を聞いて改善点もまとめる。

6 指導の効果

見やすい表を書き、数える物の欄に①～③と番号を付けたことで、何種類の活動するのか視覚的

に見通しを持たせることができた。数えるときに気を付ける点を繰り返し伝えてきたことで、生徒が自ら「10ずつのまとまりを作って数える」と言うことができ、本時の目標である「具体物の数を数えることができる」を全員達成することができた。

協力するときに気を付ける点（数え方を話し合う。見直しをし合う。結果を伝え合う）も箇条書きに板書して、ポイントを分かりやすく提示したことで、話し合いのときや数えた後に実践できていた。

数える物を、数え棒、牛乳パック、ポットと毎回種類を変えたり、人数を、ペア、3人、5人と段階的に増やしたりしたことで、徐々に活動に慣れさせることができ、混乱することなく正確に数を数えることができた。

7 今後の課題

何のために協力するのか、協力して数えるメリットは何なのか、という動機付けが不足していた。一人で数える場合と複数で数える場合の比較をするなどして、協力する必要性をもっと伝えられると良かった。

話し合う、伝え合うなど協力するときの工夫を挙げたが、数えることはできても自分からは役割が見つけれない生徒がいた。また、ペアや3人グループでは協力することができたが、5人になると、発言が苦手な生徒が指示待ちになることもあった。「一人1回は発言する。」「話し合いの進行役を決める。」など状況に応じて条件を付けたり、教師が適切な助言をしたりなどの指導の工夫が必要である。

数え方や協力の仕方について生徒に考えさせる時間が不足し、どのような点が良かったのか、改善点は何かなど振り返りも不十分であった。数えた後で生徒同士の振り返りの時間をとったり、教師が評価する時間をとったりして、数えた結果が正しいということだけではなく、そこに至る過程も重要だと伝える必要がある。

※ 授業を振り返って

板書は計画的に行うことができた。黒板の表に数字を記入して完成させていくことで、全員で協力し合うという関係を作ることをねらいとした。導入において学習のねらいをしっかり提示することで互恵的な相互依存関係を意識づけることが協同学習のカギであることが分かった。

ペアやグループでのやりとりは見られたが、数える制限時間を設定したことで、時間に追われてしまう場面も見られた。「本時の展開」ではグループの振り返りをさせるために展開の時間配分に注意をする必要がある。

前時から引き続き、「数える」という活動をしたことで、単元の目標である「同じ物同士の集合づくりができる。」「物の集まりや数詞と対応して、個数を数えることができる。」ことについて、手際良くできるようになってきたので、繰り返し行うことで定着を図りたい。

3 音楽

(1) 音楽の指導内容や特性

知的障がい教育（高等部）における音楽科では、表現及び鑑賞の能力を伸ばし、自己選択によって、音楽活動への意欲を高めるとともに、生活を明るく楽しいものにする態度と習慣を育て、生涯を通じて音楽を楽しむことができるようにすることを目標としていることが特徴である。また、働く力を育む要素が多様に盛り込まれている点も特徴的であり、歌唱では周りと協調する力や生き生きと発声する力、身体表現では自分の想像を具体化して表現する力、鑑賞では見て聴くことで曲の特徴や良さに気付く力など、人との関わりや思考力、判断力を養う要素も多くある。

音楽科の内容としては、主として小学部や中学部で学習してきたことを基盤に、さらに発展性と深まりのある学習が進められるように、いろいろな種類の音楽に親しみ、音楽の美しさを感じ取りながら聴くなどの鑑賞に関すること、音楽を聴いて曲の特徴やイメージなどを感じ取り、創造的に身体の動きで表現するなどの身体表現に関すること、打楽器や旋律楽器などの演奏の仕方に慣れ、その特徴や音色を生かしながら気持ちを込めて合奏や独奏をするなどの器楽に関すること、歌詞の内容を感じ取って、独唱、斉唱、簡単な合唱などをしたり、二部合唱、オペレッタなどによる表現に慣れ、楽しみながら歌ったりするなどの歌唱に関することなどが挙げられる。

高等部段階の生徒は、心身の発達に伴って、精神的にも成長し、社会性も広がる。音楽に対する感性も豊かになり、それぞれの生徒の好きな音楽の種類が明確になってくる。このような生徒の実態を踏まえて、魅力的な教材の選択と段階的な指導を工夫することによって、音楽活動への意欲を育てることが大切である。

(2) 音楽における協同学習の授業づくり

1 互恵的な相互依存関係

- ・男女それぞれのパートが同じパートの相手と音程やテンポをそろえて歌うことを目標に活動を行う。
- ・全員が歌詞を覚えて歌うことを目指す。（少人数のグループごとに発表し、成果を確認する）
- ・各自でダンスを考え、グループになって考えたダンスについて話し合い、一つのダンスを完成させる。
- ・学年で分担してパフォーマンスを考え、全体で一つのパフォーマンスを作り上げる。
- ・全員で一つの楽曲を完成させることを目標に、演奏活動を行う。

2 対面的なやりとり

- ・男女それぞれのパートが発表し、相手のパートに対して良い点や改善点を伝え合う。

- ・グループでダンスについて話し合う際に、良い点や改善点を論議し合う。
- ・強弱などの表現方法をグループで話し合って決め、発表して互いのグループの良い点を褒め合う。
- ・ダンスや歌うことが得意な生徒が、苦手な生徒に教える。
- ・学年で輪になってパフォーマンスの構成を話し合う。
- ・楽曲を演奏するために、話し合ったり、助け合ったり、励まし合ったりする。

3 個人としての責任

- ・少人数グループで合唱練習をして、一人一人が歌っていることを確認できるような場面を設定する。
- ・一人一人が考えたダンスを発表する場面を設定する。
- ・身体表現の練習では、動きを理解していない仲間を確認して、仲間同士が個別に教え合うことで個人の責任としての意識を高める。
- ・一人一つの楽器を担当し、担当した音を必ず演奏する。

4 協同学習スキル

- ・相手の歌声を聴いて、音程を合わせる。
- ・相手の身体表現を見ることで、テンポの速さやリズムの感じ方について自分の表現の参考にする。
- ・一人ずつ順に声を重ねることで、音量や声の響きが変化することを感じさせる。
- ・身体表現では、声を出して拍をカウントする。
- ・自分が演奏に失敗した際に謝ることができる。また、仲間が失敗した際に許すこともできる。

5 チームの振り返り

- ・自分たちの合唱やダンスについて、ハーモニーや声の音量、音程やテンポなどについて振り返りを行う。
- ・グループや学年ごとにダンスを発表して、グループや他学年同士で良いところや改善箇所を伝え合う。
- ・演奏の上達を目指して反省し合う。

(3) 音楽で協同学習を取り入れるメリット

歌唱では

- ・相手の歌声に耳を澄ませて音程を合わせたり、体の動きを見てまねをしたりすることで、周りを見たり、他者を感じて合わせたりすることができる。
- ・全体で一つの物を作り上げる意識が芽生える。

鑑賞では

- ・歌詞の内容から心情や背景を自由な発想で読み取り、考えを他者に伝えることができる。
- ・一つの曲を全体で鑑賞し、自由な発想で強弱を考え合って歌ったり、演奏したりすることができる。

身体表現では

- ・それぞれが自由に表現を考え、意見を合わせて一つのダンスを作り出すことができる。
- ・仲間の動きに合わせてたり、教え合ったりすることでダンスの向上を目指すことができる。

(4) 課題点

音楽科では、指導内容が協同学習につながることや協同学習の要素とつなげやすい内容が多くあり、協同学習スキルを明確に取り入れることで、歌やパフォーマンスの質や自発的に取り組む姿に向上が見られている。音楽の知識や技能が向上することで更なる自発性の向上を目指し、知識面の指導に重点を置く必要がある。

音楽の実践例

単元・題材名 (授業名)	玄関コンサートに向けて(合唱・第2回)	生 徒	3年生徒18名
-----------------	---------------------	-----	---------

1 授業のねらい

(単元の目標)

- ・玄関コンサートに向けて、歌を仕上げることができる。
- ・より良い表現をするための要素について考え、工夫することができる。

(本時の目標)

- ・担当した部分の歌詞を覚えることができる。
- ・音程の感覚をおおよそつかむことができる。

2 生徒について

- ・学年全体的に、どの授業においても意欲的に学習に取り組むことができるようになってきた。
- ・男子に比べ、女子の方が意欲的に話し合ったり、歌ったりすることができる。
- ・活動内容によっては、人任せになってしまう生徒がいる。

3 指導計画

- 第1回 12月 5日 : 玄関コンサートで歌う曲の選定
- 第2回 12月12日 : 1曲目の練習 (本時)
- 第3回 12月21日 : 1曲目と2曲目の練習
- 第4回 1月23日 : 2曲目と3曲目の練習
- 第5回 2月 6日 : 3曲目の練習
- 第6回 2月13日 : 3曲目の練習、本番に向けた最終確認

4 本時の展開

	学習活動	生徒の活動	教師の活動	教材教具
導入 5分	- グループ分け - 挨拶 - 本時の学習内容と目的の確認	- 男子パート、女子パートを共に2つ、合計4つのグループに分かれる。 - 指名されたグループはタイミングとテンポを合わせられるよう工夫して始まりの挨拶をする。 - 本時の学習内容と目的について知る。	- グループに分かれるよう指示する。(グループ名は、男A、男B、女A、女Bとする) - 挨拶するグループを指名し、タイミングとテンポを合わせて、挨拶をするよう伝える。 <協同学習の要素や配慮事項> - 本時は、メンバー全員の協力と一人一人の意識が大切だということを導入で実感できるよう工夫する。(配慮①) - 本時は「楓」を歌唱することを伝える。 - それぞれのグループで担当した歌詞を覚えることで、一つの曲を完成させることを伝える。 <協同学習の要素や配慮事項> - 各グループが責任を果たし、協力し合うことで、一つの曲が完成することを伝える。(①)	
展開 40分	- 歌唱練習 - 歌唱①	- 担当する箇所(歌詞)を知る。 - 担当する1行を決める。 - 歌詞を見ながら全員で歌唱する。	- グループに1枚、A3版の歌詞を配布し、各グループが担当する箇所(歌詞)を伝える。 - 担当箇所の中でも、さらに1行あたりの担当者を決めるよう伝える。 <協同学習の要素や配慮事項> - 人数と実態によっては、1行を複数で担当することを可とする。(配慮②) - 担当箇所と音程を簡単に把握できるよう、一度歌唱する。	A3版の歌詞

	・グループ練習	・各グループで、担当箇所の歌詞を覚えることと、音程をおおよそつかむための練習を行う。 ＜楓＞ 女A：1番のAメロ 女B：2番のAメロ 男A：1番のBメロ 男B：2番のBメロ	・歌詞を見ないで練習することを伝える。 ・担当した1行に関しては、必ず責任を持って歌詞を覚えて歌うことと、仲間が分からなかった場合は教えること、最終的にグループが担当した箇所を全員が歌えるよう練習することを伝える。 ＜協同学習の要素や配慮事項＞ ・必ず1行は覚える。(③) ・仲間と教え合いながら解決する。(②) ・分からない場合は聞き、分かるところは教える。(④) ・分かりやすい伝え方や、効果的な練習方法など、仲間の良いところを見つけた場合は、模倣をするなど取り入れる。(④)	
	・発表・鑑賞	・Aグループ（男・女）が一番を発表する。 ・Bグループ（男・女）が二番を発表する。	・一番をAグループ（男・女）が、二番をBグループ（男・女）が歌うよう指示し、伴奏する。	
	・各パートで交流	・Aグループ（男・女）が一番の歌詞とおおよその音程をBグループに教える。 ・Bグループ（男・女）が二番の歌詞とおおよその音程をAグループに教える。	・時間を指定し、AグループがBグループに一番を教え、その後にBグループがAグループに二番を教えることを指示する。 ＜協同学習の要素や配慮事項＞ ・個人やグループが担当した箇所を相手のグループに教える。(②) ・男女各パートの完成に向けて練習する。(①) ・分からない場合は聞き、分かるところは教える。(④)	
	・歌唱②	・男子パート、女子パートで円を作り、二番の終わりまで全員で歌う。	・どの程度覚えることができたか一番と二番を全員で歌唱することを伝え、伴奏する。	

	・ 振り返り ・ パート練習 ・ 歌唱③ ・ 全体練習 ・ 歌唱④	・ 男子と女子の各パートで、到達度について振り返る。 ・ 振り返った内容を基に練習に取り組む。 ・ 全員で、二番の終わりまで歌う。 ・ 間奏以降の歌詞と大まかな音程について練習する。 ・ 曲の最初から最後まで歌う。	・ 男子パート、女子パートの歌詞を覚えて歌えたか男女に分かれて振り返りを行うよう伝える。 <協同学習の要素や配慮事項> ・ 個人やグループの取り組み方とその結果について振り返る。 (⑤) ・ 振り返った内容を基に、男女に分かれて再度練習を行うよう伝える。 ・ 再度、一番と二番を全員で歌唱することを伝え、伴奏する。 ・ 間奏以降の歌詞と音程について確認する。 ・ 曲の最初から最後まで歌うことを伝え、伴奏をする。	
整理 5分	・ 次時の確認 ・ 挨拶	・ 次回の授業の内容を確認する。 ・ 全員でタイミングとテンポを合わせられるよう工夫して終わりの挨拶をする。	・ 次時の説明をする。 ・ 全員でタイミングとテンポを合わせて挨拶するよう伝える。	

5 指導上の工夫

① 互恵的な相互依存関係

個人が担当した歌詞を覚えることでグループとしての担当部分を作り上げ、グループに与えられた箇所を覚えることで、協力し合って全体で一つの曲を完成させる。

② 対面的なやりとり

グループに与えられた責任を果たすために、個人が覚えた歌詞をグループ内で教え合う。また、男女の各パートが担当する歌詞を覚えるために、男Aグループと男Bグループ、女Aグループと女Bグループで教え合う。

③ 個人としての責任

一人1行歌詞を担当し、グループ内や他のグループと交流するときに教える。そのために、最低限自分が担当した1行は確実に覚えられないといけないという責任をもつ。

④ 協同学習スキル

グループに与えられた責任を果たすためにグループ内の仲間と、全体に与えられた課題を解決するためにパート内の仲間と分からない場合は聞き、分かるところは教え合う。また、練習

の際に分かりやすい伝え方や、効果的な練習方法など、仲間の良いところを見つけた場合は、まねをするなど取り入れることで、個人またはグループのスキルアップにつなげる。

⑤ チームの振り返り

男子と女子の各パートが、一番と二番の歌詞を覚えることができたか振り返り、パートとして良かったところや足りなかったところを話し合いの中で明らかにすることで、その後の練習に生かす。振り返って終わりではなく、最後の発表につなげるために努力するという、振り返ったことを基に次につなげるという姿勢を身につけることができるよう、授業の途中に振り返りの学習を設定する。

6 指導の効果

本時は、「歌詞を覚える」というインプットに重点を置いた授業を行ったため、話し合いをメインで行うというよりは、組織の中の位置付けを理解し、全体のために個人として努力することを目的とした授業を行った。そのために、一人一人が本時の中で何をしなければいけないか「個人の責任」を明確にしたこと、チームや各パートで目的を共有し、「互恵的な相互依存関係」を確実に機能するよう工夫したことで、授業の終わりまで生徒が主体的に取り組むことにつながった。また、授業の終盤ではなく中盤に「チームの振り返り」を行ったことで、「協同学習スキル」をより意識しながら、その後の「対面的なやりとり」も活発になった。その結果、全てのチーム、パートが目的を達成し、学年全員で曲を完成させることができた。さらに、3年間同様の授業を積み重ねてきたことにより、簡単な指示で生徒が与えられた責任を果たすとともに、自分達で創意工夫しながら学習に取り組むことができるようになった。

7 今後の課題

授業を行った結果、チームの振り返りを授業展開のどの場面で取り入れるかが重要なポイントであった。今後も、実践を積み重ねながら工夫していきたいと思う。また、「仕掛け」が有効的に働かなかったときも想定して、指示の出し方や、理解が深まるような発問の仕方、時間指定や一人一人の実態把握とそれを踏まえた目標や配慮事項の設定など、様々な指導のスキルをもっていくことも今後の課題だと思う。

※ 授業を振り返って

協同学習に限らず、指導の基本をしっかり押さえていないと授業がうまくいかないため、授業を行う上で必要な要素を効果的に組み合わせながら授業を展開していくことが大切である。その上で、協同学習の枠組みに当てはめながら授業の仕組みを考えていくと“主体的・対話的で深い学び”につながることを実感した。そして、改めて最終的に“深い学び”にどのようにつなげていくかが難しく、また、そのための効果的な工夫を考える楽しさにも気付くこともできた。

今後も、実態把握する力や、将来を見据えて目標や指導内容を設定する力、他者との関係に気を配りながら学びを最大限に引き出す力、教科指導に必要な知識や技能など、自分自身の指導力の向上に向けて努力していきたい。そして、それらを機能させるために協同学習を軸とした“主体的・対話的で深い学び”に向けた授業力も向上していきたい。

4 美術

(1) 美術の指導内容や特性

高等部の美術は、中学部における美術科の基礎的な造形活動の経験を基にして、表現及び鑑賞の能力を一層高め、基礎的、発展的な創作活動を充実して豊かな情操を培うことを目標としていることが特徴である。

美術科の目標としては、生徒の心身の発達の特性を考慮し、「表現」、「材料・用具」及び「鑑賞」の三つの観点で構成されている。造形的な創作活動では、ものの美しさを感じ取る感性を高め、自己のものの見方や感じ方に基づいて表現する力を伸長し、制作能力を高めて造形の喜びを味わい、これらの力を生かして一層豊かな生活ができるような人間性を育むことを重点としている。

創造的な造形作品は、生徒の内面の表出であり、個性の表現であることに留意し、多様な表現に発展させるとともに、自他の作品を丁寧に扱い、生活に生かす観点や他の作品の工夫点を学ぶ態度を養う特性がある。

(2) 美術における協同学習の授業づくり

1 互恵的な相互依存関係

- ・準備や片付けをグループごとに協力し合って遂行する。
- ・グループごとに話し合い、協力して1枚の絵を完成させる。

2 対面的なやりとり

- ・グループで絵について話し合う際に、自分の意見を言って論議し合う。
- ・絵を描くことが得意な生徒が、苦手な生徒に描き方を教える。
- ・グループで話し合うときに積極的に意見を出し合う。

3 個人としての責任

- ・グループの中で役割を決め、責任を持たせる。
- ・一人一人が意見を言うことで、作品ができるという条件を設定する。
- ・一人一人が自ら行動することで準備、片付けがスムーズにできる。

4 協同学習スキル

- ・授業の最後にグループごとに作品を発表し、他のグループの良いところを取り入れる機会を作る。
- ・他の人の作品を見ることで、自分の作品制作の参考にする。

5 チームの振り返り

- ・目標について振り返りを行う。
- ・準備や話し合いや絵を描くときや後片付けのときに協力する。
- ・話し合いや発表のときに自分たちの作品について表現する。

(3) 美術で協同学習を取り入れるメリット

表現では

- ・一つの作品を作る過程で、話し合い活動が活発になる。
- ・グループで一つの作品を作り上げる意識が芽生える。

鑑賞では

- ・作品から受ける印象を自由な発想でまとめて、自分の考えを他者に伝えることができる。
- ・一つの作品を全体で鑑賞し、自由な発想で発表し合うことができる。

材料・用具では

- ・グループで使った用具をグループごとに声を掛け合って、後片付けを協力してできる。
- ・順番や担当を決めることで用具を効率よく使いこなすことができる。

(4) 課題点

美術科では、個人で作品を作ることが多いので協同学習を取り入れることは難しいのではと考えがちだが、協同学習を実施してみると、活発に意見を交わす姿が多く見られ、生徒同士の協力によって一つの作品を作ることができ、教育的効果がある。

日々の個人の作品を作る課程で協同学習を追究するのは美術では難しいと考えるが、お互いの作品の良いところを見つけることができる着眼点を持てるよう、協同学習を通して指導していきたいと考える。そして、得意な生徒が苦手な生徒に教えることができるような題材の研究も必要である。

美術の実践例

単元・題材名 (授業名)	モダンテクニック (「海の中」を表現しよう)	生 徒	1年生徒24名
-----------------	---------------------------	-----	---------

1 授業のねらい

(単元の目標)

- ・モダンテクニックで表現することができる。

(本時の目標)

- ・モダンテクニック（ローラー・ぼかし網・ストロー）で「海の中」を表現することができる。
- ・3～4人で話し合い、協力してイメージした作品を作ることができる。

2 生徒について

- ・美術の得意な生徒と不得意な生徒とのギャップが大きいが、全体的に意欲的に取り組む。
- ・これまで、個人の作品発表を通して表現力アップに取り組んできたことで、自分の考えをまとめて発表できる生徒が増えている。

- ・美術は、個人的な活動が多いので話し合いや協力して作品を作り上げることに慣れていない生徒が多い。

3 指導計画（共同学習を取り入れた授業を含む）

第1回 11月28日：ローラー・ぼかし網・ストローを用いて森を表現する学習

第2回 12月5日：モダンテクニックで「海の中」を協同で仕上げる学習①

第3回 12月12日：モダンテクニックで「海の中」を協同で仕上げる学習②（本時）

4 本時の展開

	学習活動	生徒の活動	教師の活動	教材教具
導入 10分	・挨拶 ・本時の学習内容の説明 ・目標設定 ・作品紹介	・家庭総合科日直が号令を行う。 ・本時の学習内容の説明を聞く。 ・グループの目標を記入する。 ・前時の作品紹介	・日直の号令で挨拶をさせる。 ＜協同学習の要素や配慮事項＞ ・本時の流れと前時との違いを黒板に視覚的に掲示する。（配慮⑮） ・書き方のポイントを説明してから机間巡視を行う。 ・前時の作品を紹介させる。	・ワークシート
展開 60分	・話し合い ・絵を作成する ・後片付け	・春夏秋冬の中からテーマを決める。 ・道具の担当がローテーションできるように決める。 ・構成を考える。 ・1枚の色画用紙を3～4人で分担して3種類の道具を使って表現する。 ・声掛けしながら協力して後片付けを行う。 ・道具を洗う。	・テーマを決めさせる。 ＜協同学習の要素や配慮事項＞ ・全員協力して話し合い、個人の役割を明確にする。（③） ・準備・作成・後片付けで遊んでいる人がないように取り組ませる。 ＜協同学習の要素や配慮事項＞ ・3～4人のグループで協力して、1枚の絵を作成する。（①）	・海の中の写真 ・ローラー ・ぼかし網 ・ストロー ・色画用紙 ・厚紙ハサミ ・絵の具セット
整理 20分	・グループの振り返り ・作品説明	・グループごとに学習を振り返る。 ・グループごとに作品を説明し、共有する。	・本時の目標に向かって活動することができたか確認させる。 ＜協同学習の要素や配慮事項＞ ・全員が、意見を出し合うことができたか、グループとして意見をまとめ絵に反映することができたか、本時の活動を振り返る。（⑤）	

	・次時の予定 ・挨拶	・次時の予定を知る。 ・家庭総合科日直が号令を行う。	・次時の予定を伝える。 ・日直の号令で挨拶をさせる。	
--	---------------	-------------------------------	-------------------------------	--

5 指導上の工夫

① 互恵的な相互依存関係

個人の役割をしっかりと果たさないと作品が完成しない状況を設定した。その結果、話し合いも自分の意見を出すだけでなく、相手に合わせたり他の人の意見に賛同できるよう設定した。

② 対面的なやりとり

テーマや道具の担当、色や構成などを考えるときに、お互いに意見を交換し、話し合いに協力的に参加できるよう設定した。前時の反省で討論できるように設定した。

③ 個人としての責任

自分の担当部所に責任を果たさないと良い作品ができあがらない。意見をしっかりと聞いていないとグループのイメージどおりの作品にならないので、ワークシートを利用して個人の役割を明記させ、反省につなげるよう設定した。

④ 協同学習スキル

他の人の考え方や、自分の考えと違う考えがあることを認めて素直な気持ちで聞き入れたり、他のグループの技法を取り入れながら作品を作り上げる。片付けの際に前時の反省からリーダーを中心に生徒同士が声を掛け合えるように指導した。

⑤ チームの振り返り

授業の最後にグループの振り返りをさせて、全体に発表させ共有させることで、他のグループの良いところなどを参考にすることで次の授業への意欲を高めさせる。

6 指導の効果

今までは個人の作品を作成することが多かったのでいい加減に取り組んでも誰にも何も言われなかったが、本時では役割が当たることで個人としての責任がグループの中で問われるので真剣に取り組む姿が見られた。担当を決めたり、構想を考えたりする中で今までは誰かまかせだった生徒が積極的に意見を言うことができた。しかも自分の意見を言うだけでなく、相手の意見を取り入れて作品を作ることができた。

7 今後の課題

話し合いのスキルをもっと高くしていくことが必要と思われる。そのためには、授業の途中で作品交流をもっと多くして慣れさせていくことが必要と考える。グループの中でやることが分からない生徒への配慮もT2を中心に充実していくことが必要と思われる。個人の作品をつくる普段の授業に協同学習をどう取り入れていくかが課題と考えるが、当面片付けのときに声を掛け合うことで取り入れていきたいと考えている。

※ 授業を振り返って

モダンテクニックの授業は、2年目であるが今年は、話し合うテーマを分かりやすく工夫したことで生き生きと意見を言っている姿が新鮮だった。特に普段美術を得意としない生徒が海に潜った経験があることで自信をもって意見を言う場面を作れたことが良かったと思った。

改善すべきところは、生徒に活動させるときに活動のポイントを的確に伝えることである。特に今回は前時の作品の発表の仕方がまちまちであったので、同じ発表ができるように例を提示して説明することが必要と考えている。

5 保健体育

(1) 保健体育の指導内容や特性

保健体育科で取り扱う内容としては、体づくり運動、スポーツ、武道、ダンス及び保健がある。運動を実践していく中で運動の技能を高めるばかりではなく、集団競技を通して、望ましい人間関係の形成を促進することにつながる。また、体を動かす楽しさや心地よさを味わえるとともに、健康や体力の状況に応じて自ら体力を高める方法を身に付け、運動やスポーツの習慣を養うこともできる。

体育で身に付けた体力や運動能力は、学習や生活の効率を高め、社会自立に必要な体力や判断力、責任感、協調性などを育成することにつながり、情緒の安定を図ることにも有効である。

保健に関する知識、技能、望ましい習慣及び態度を身に付けることは、健康で安全な生活を充実させ、将来の生活を豊かにすることにつながる。

将来の余暇活動も視野に入れた適切な運動の経験や健康・安全についての理解を通して、心身の調和的発達を図り、明るく豊かな生活を営む態度と習慣を育てることを目標としていることが特徴である。

(2) 保健体育における協同学習の授業づくり

1 互恵的な相互依存関係

- ・チームとしての目標を設定する。
- ・集団競技における作戦会議を実施する。

2 対面的なやりとり

- ・作戦会議で目標達成に向けての意見を出し合う。
- ・名前や声を掛けながらパスをする。
- ・お互いの動きを見て、アドバイスし合う。

3 個人としての責任

- ・ポジションなどの役割を明確にする。
- ・線審や得点板などの主審補佐業務を設ける。

4 協同学習スキル

- ・ワークシートに記入しながら、作戦会議や反省、改善策などを考える。
- ・チームの改善点及び相手チームのプレイを分析する。
- ・協力して道具を準備や片付けをする。
- ・アドバイスをする。

5 チームの振り返り

- ・視聴覚教材（ビデオカメラ、テレビ）を使用し、試合や運動の様子を振り返り、効果的な戦術について話し合う。

- ・試合や運動の様子を振り返り、ワークシートに記入する。
- ・良かった点や改善点を基に練習内容を考える。

(3) 保健体育で協同学習を取り入れるメリット

- ・「実践→作戦会議（振り返り）→実践」の一連の流れを行うことで、生徒たちが自主的に相談することが増える。
- ・チームで試合をした後に振り返りを行うことで、他者の意見を聞くことができ、様々な視点や観点で話し合うことができる。
- ・試合中や他チームの応援などの場面で、生徒同士が声を掛け合うことができる。
- ・話し合い活動で司会をした生徒が、試合の中でも司令塔として活動することができる。

(4) 課題点

各種目で話し合い活動を取り入れることで、話し合いはスムーズにできるようになってきているものの、体育などの運動になると、ルールの理解力や運動能力の差が課題となる。そのため、ルールの理解や競技に慣れるための時数確保、及び指導法の工夫を行う必要がある。また、各種目の基礎基本や戦術などについても1学年段階から設定し、指導していかなければならない。

作戦会議の在り方についても検討が必要である。作戦会議を行っていく上で発言の中心となる生徒が固定されてしまいがちになるため、考える視点や観点について指導者が事前に提案するなど、生徒自身がチームとして全員で意見を出し合い共有することができるように、いかに環境を設定していけるかが課題となる。

保健体育の実践例

単元・題材名 (授業名)	バスケットボール（第4回）	生 徒	3年生徒20名
-----------------	---------------	-----	---------

1 授業のねらい

(単元の目標)

- ・パスやドリブル、シュートなどの基本的な技術を試合で生かすことができる。
- ・チームで協力して試合に取り組むことができる。

(本時の目標)

- ・試合を通して、チームに必要なスキルを考え、練習、実践することができる。

2 生徒について

- ・運動能力は実態差があり、意欲的に取り組める生徒と消極的になってしまう生徒がいる。そのため、体育では、年間を通して同じチームで活動に取り組んでいる。
- ・集団競技では実践を中心に取り組み、その実践を受けて振り返りを行っている。振り返りでは、

チームとして個人の役割やチーム力向上のための具体的な方策を考えている。

3 指導計画

- 第1回 10月19日：競技の説明、実践
 第2回 10月26日：競技の実践、作戦会議、作戦会議を基にした練習
 第3回 11月30日：競技の実践、作戦会議、作戦会議を基にした練習
 第4回 12月7日：競技の実践、作戦会議、作戦会議を基にした練習（本時）
 第5回 12月14日：競技の実践、作戦会議、作戦会議を基にした練習

4 本時の展開

	学習活動	生徒の活動	教師の活動	教材教具
導入 10分	・集合、挨拶 ・本時の内容、ねらいの説明 ・体操 ・ランニング	・学科ごとに整列する。 ・農業科日直が挨拶をする。 ・本時の体育の内容、ねらいについて説明を聞く。 ・体操を行う。体育委員はステージ上で演示を行う。 ・自分のペースでランニングを3分行う。	・学科ごとに整列させる。 ・本時の授業の内容、ねらいについて説明する。 ・体操を行いながら、生徒の様子観察をする。 ・ランニングを行いながら、生徒の観察をする。	・タイマー
展開 82分	・3対3（10分） ・チームメンバー発表（2分） ・試合、作戦会議（15分）※①	・チームごとに分かれる。 ・3対3を行う。 ・チャレンジリーグ、フレンドリーリーグのチーム編成を確認する。 ・チャレンジリーグのチームは7分間で試合を行い、フレンドリーリーグのチームは6分間で試合を行う。 ・ステージで待機しているチームは、試合を振り返って必要な練習を話し合い、できる練習を行う。	・活動を見ながら、動き方の助言をする。 ・チーム編成を生徒に伝え、ホワイトボードにメンバー表を掲示する。 ・実践後の作戦会議では、生徒の話し合いを聞きながらT2～4が助言をし、具体的な方策を考えるよう指導する。 ・実践では、T1が審判を行う。 ・実践における注意事項を実践前に伝える。 <協同学習の要素や配慮事項> ・チーム対抗の実践では、それぞれがチームとして与えられた役割を果たすように指導する。(③) ・実践後にはチーム内で話し合う作戦会議の時間を設ける。(②、⑤)	・タイマー ・ボール ・ビブス ・メンバー表 ・ワークシート ・作戦ボード ・タイマー

			<協同学習の要素や配慮事項> ・ワークシートを基に、協力し合って自分たちのチームの目標を設定する。(①) ・個人の役割を果たすことができたのかを確認し、次はどうすべきかを考える。(③) ・作戦会議を通して、相手にとって嫌に感じることや自分たちにとってされたら嫌なことを考えながら方策を考える。(④) ・チーム内で良かった点、チームにまだ足りない点を話し合い、どのような練習をすべきかを考える。(⑤) ・実践した後に作戦会議、練習を繰り返し行い、練習内容や活動量の質を高めていく。(配慮①)	
	・チーム練習 (10分) ※②	・試合が終わったら、チームでの話し合いを基に、チームごとに練習をする。	・各リーグの練習箇所に分かれて、助言などを行う。	・タイマー
	※①、②を2セット行う。2セット終了後、1試合ずつ行う。			
	・振り返り (5分)	・実践や練習を通して本時の成果と課題、次回の重点について話し合う	・生徒が話し合っている様子を観察しながら、適宜助言などを行う。	
整理 8分	・片付け ・整理体操 ・終業挨拶	・一斉に片付けをする。 ・体育委員を中心に整理体操を行う。 ・次時の連絡を聞いた後、農業科日直が終業の挨拶をする。	・片付けの指示を出す。 ・体育委員に整理体操の指示を出す。 ・次時の授業についての連絡を行う。	

5 指導上の工夫

① 互恵的な相互依存関係

チームとして相手に勝つための目標を試合ごとに設定していく。それをチーム内で共有しながら実践を行っていく。また、毎回の作戦会議の中で、勝っても負けても振り返りを行い、よりよい方向に向かうためにどうすべきかを協力しあって検討していく。

② 対面的なやりとり

実践後には必ず作戦会議の時間を設け、生徒同士で次の試合に向けてどうするのかや試合に勝つために今チームとしてどのような練習が必要なのかを考える時間を設ける。その中で生徒が意見を出し合いながら、生徒同士がやりとりできる時間を設定していく。

③ 個人としての責任

各個人の役割を作戦会議で明確にしていく。また、実践後にその役割や責任を果たすことができていたのかを作戦会議で振り返り、次の試合に向けての改善策を考えていく。

④ 協同学習スキル

振り返りを行う際に、自チームが勝つための改善点だけではなく、相手チームにとってされたら嫌なことも同時に考えながら作戦会議を行っていく。

⑤ チームの振り返り

実践を終えてからすぐに振り返りの時間を設け、自分たちの良かった点、チームとして改善すべき点を話し合いながら、実践に向けた練習内容を自分たちで設定する。また、練習を受けて実践、振り返りを繰り返し行い、生徒たちが主体となってできるよう設定する。

6 指導の効果

実践→作戦会議→チーム練習→実践を行った結果、作戦会議を行うことで、個人の役割が明確になり、それに対して一人一人が責任をもって役割を果たそうとする結果が得られた。また、チームで振り返ることで、他者の意見も聞くことができ、様々な視点や観点で話し合うこともできたとともに、実践後すぐに振り返ったこともあり、チームに足りないもの、改善点をすぐに共有し合うことができた。

7 今後の課題

作戦会議の在り方については検討が必要である。どうしても作戦会議を行っていく上で発言の中心になる生徒が固定されてきてしまう。そのため、その人たちが中心となって物事が進んでいく可能性もあるため、いかにチームとして全員で意見を出し合い、共有することができるのかが今後の課題として挙げられる。

※ 授業を振り返って

チームで目標をもち、話し合いを通して改善していくために、作戦会議で必要な練習を考え、取り組むことで、目標を達成しようとする姿勢が見られた。また、相手に勝つためにはどのような動きをすればいいのかを考えながら動いてる生徒も増えてきた。(相手からフリーのポジションでもらう動きやフリーの人にパスを出そうとする姿勢)

作戦会議を行っていく上で、発言する生徒の偏りが見られた。そのため、より作戦会議を充実させるに当たって、全員が意見を出し合うための工夫や環境設定が必要となる。また、作戦会議を行うに当たって、基礎的な知識が備わっていないと知っていることだけでの話し合いになるために、知識を深めていくこともより大切だと感じた。